

## 令和4年度第1回県北広域振興圏地域運営委員会議 会議録

日時：令和4年7月29日（金）13:30～16:00

場所：久慈地区合同庁舎6階大会議室及び  
二戸地区合同庁舎1階大会議室

### 1 開会

#### 【下山理事】

定刻となりましたので、ただいまから令和4年度第1回県北広域振興圏地域運営委員会議を始めさせていただきます。私は、司会進行を務めます、理事兼副局長の下山と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは始めに、県北広域振興局の坊良局長から、御挨拶申し上げます。

### 2 挨拶

#### 【坊良局長】

みなさんこんにちは。この4月から、県北広域振興局の方に参加しております、坊良と申します。よろしくお願いいたします。

本日は御多用の中お集まりいただきまして、ありがとうございます。この会議でありますけれども、この地域の将来計画でありますとか、取組実績、来年度の取組方針、こういったようなものを地域のみなさまと一緒に協賛し、意見交換、そういったようなことをするための会議でありまして、年2回ほど開催をしているものでございます。

本日は、新型コロナウイルス感染症対策ということで、会場を久慈と二戸の2つに分けて開催しておりますので、よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症につきましては、第7波に突入して、急増が続いております。医療のひっ迫など懸念される状況となっております。そういったようなことに加えて、国際的諸情勢の影響ということで、原油価格・物価の高騰など、非常にこの県内の経済をとりまく状況は厳しいものとなっております。県といたしましては、6月議会におきまして、この感染拡大の防止、あるいは、生活している方、事業者の支援のためということで、補正予算を編成しているところでございます。国・市町村、そして、起業や地域、個人などあらゆる方々と連携しまして、感染拡大の防止と、社会生活、経済活動の両立に向けて、全力を挙げて取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

県北管内におきましては、昨年7月に世界遺産に登録となりました、一戸町の御所野遺跡が、7月27日、一昨日、登録1周年を迎えたところであります。また、昨年12月には、三陸沿岸道路が全線開通しました。今年度は、北東北3県とJR東日本が連携した大型観光キャ

ンペーンも始まっているということで、非常に明るい話題も増えてきているところでもあります。こういったような動きを、地域振興の大きなチャンスと捉えまして、地域の活性化につながる取組を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

「いわて県民計画（2019～2028）」でありますけれども、これは、平成31年3月に策定したところでございます。その計画につながるものとして、地域振興プランがあるのですけれども、それに基づいて私ども、この地域振興の取組を展開してきたところでございます。このプランは4年間の計画となっているということで、本年度が最終年度ということになります。最終年度ということで、この4年間を振り返りつつ、そして、新しい地域振興プランを策定するということとなります。本日は、そういったような流れの中で、まずは今年度における振興局の取組、新たな地域振興プランの策定に向けて、現行の地域振興プランの振り返りについて説明をしたいと思っております。そして、皆様から、この県北地域の現状と、今後に向けた展望について、意見交換をしていただきたいと思っております。これにつきましても、よろしくお願いいたします。

委員の皆様の任期は2年となっておりますので、昨年度から引き続けている委員は9名、そして、今年度新たに6名の皆様に委員になっていただいております。ひとつよろしくお願いいたします。

本日は限られた時間ではありますが、県北地域の活性化につなげていけるよう、委員の皆様から、それぞれの立場で、様々な意見を頂戴できればと思っております。本日はよろしくお願いいたします。

### 3 議事

#### 【下山理事】

次に、本日御出席の委員、それから県の出席者ですが、お手元の名簿をもって紹介に代えさせていただきますので御了承願います。なお、本日は御都合によりまして、高浜菜奈子委員、千葉暢威委員、野田大介委員は御欠席でございます。

議事に入る前に、配付資料の確認をさせていただきます。本日は次第、出席者名簿、座席表、県北広域振興局地域運営委員設置要綱をお配りしております。また、次第の下の箱囲みに記載している資料5種類、地域振興プラン冊子につきましては、事前に送付させていただいております。それから、本日説明はいたしません、県の事業の関係で、1つリーフレットをお手元にお配りしています。足りない資料がありましたら、事務局までお知らせ願います。

それでは次第の3、議題に入らせていただきます。

県北広域振興局地域運営委員設置要綱第4の規定によりまして、運営委員会議は局長が主宰することと定められておりますので、以降の進行は、坊良局長が行います。

**【坊良局長】**

それでは、規定に基づきまして、進行をさせていただきます。進行に当たりましては、皆様方の御協力をお願いいたします。次第の3、議事に入ります。

初めに、「令和4年度県北広域振興局の主な取組について」説明をいたします。事務局から、資料1の説明をお願いします。

**【高橋企画推進課長】**

〈資料1の説明〉

**【坊良局長】**

ただいま説明いたしましたことにつきまして、御質問や御不明点などございましたら、お願いします。挙手をしていただければと思いますが、いかがでしょうか。

二戸地域からの参加の方も、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

**【山村副局長】**

二戸の方、聞こえにくいので、説明者はもっと強く、はっきり発音していただけるようにお願いします。今の説明、あまり聞き取れませんでした。申し訳ありませんが、そのように発言者は気を付けて発言をお願いしたいと思います。

**【坊良局長】**

はい、了解しました。このぐらいだと聞こえますか。

**【山村副局長】**

あまり聞こえません、正直。ボリュームが低いのではないのでしょうか。ボリュームが低いと思います。

**【坊良局長】**

できるだけボリュームいっぱいやっていきたいと思います。

御質問等あればお願いします。

よろしいでしょうか。それでは、続きまして、「現行の地域振興プラン（県北広域振興圏）の振り返りと次期地域振興プラン策定に向けて」ということで、説明をいたします。

初めに事務局から、資料2・3について説明いたします。その後、委員の皆様から順番にお一人3分程度で、「それぞれの分野から見た県北地域の現状と今後に向けた展望」について、

お聞かせいただければと思います。それでは、事務局から説明をお願いします。

**【高橋企画推進課長】**

〈資料 2・3 の説明〉

**【坊良局長】**

ただいまの説明について、御質問・御不明な点がございましたらお願いいたします。手を挙げていただければと思いますが、いかがでしょうか。

皆様、資料 2 の方の 6 ページ、7 ページをもう一度開いていただきたいんですけども、これから皆様から意見を頂戴したいと思います。ただいまの説明については、7 ページのところ、「現行の地域振興プランに基づく各施策の状況【目次】」というところがありますけれども、我々がこの 4 年間、様々取り組んできた、具体的に整理した項目がこれになります。ローマ数字の I でいきますと、「隣接する圏域等とのつながりを生かし、一人ひとりが健康で心豊かに暮らせる地域」の実現ということで、黒で記載した「1 多様な交流・連携により…」というところから、3-2 までの、こういった分野に取り組んできました。そして、ローマ数字の II、III それぞれに具体的な取組が、ぶら下がっているといただきますか、関連、体系づけられて取り組んできたというものでございます。

みなさまには、これから御意見を頂戴するわけですけども、皆様が実感として、この地域にどういふ変化があったのか、あるいは変化がなかったのかといったようなところを、お聞かせいただきたい、あるいは、こういったような取組が足りなかったんじゃないのか、もっとこうすればいいんじゃないのかといったような視点で、それぞれの専門な分野から、お話をいただきたいと思います。

役所ですから、こう、「施策の体系です」とか「データは」というふうに示しているんですけども、究極は、県民の方がどう感じているのかということになるわけでございますので、委員の皆様が実感されているこれまでのこととか、将来に向けたことについて、お話をいただければと思います。

それでは、早速でございます、久慈会場から順に参りたいと思います。

まずは、内野澤委員、お願いします。

**【内野澤委員】**

野田村でホタテ、わかめを養殖しています、内野澤といいます。現状としましては主力魚種サケ・イカ・サンマの漁獲量の激減や労働人口の高齢化、担い手不足など課題はたくさんあります。しかし、特効薬的な対策はなかなか無くて解決出来ていません。

ですが今年 1 名が、漁師の息子なんですけども、水産アカデミーの制度を利用しまして、U

ターンしてきて就業しております。また地域おこし協力隊の人でホタテ養殖希望の1名が漁家の手伝いをしながら勉強中です。若い人にホタテをやりたい、ホタテの作業は楽しいと思えるように、また新規就業者が増えるように他地区の成功例を聞いたり魅力をPRしたり、行政から指導と協力を受けながら課題を少しずつ減らしていきたいと思います。

去年の8月頃からホタテの大量斃死が発生し、皆さんにホタテを届けることが難しくなってきた困っています。なんとか原因が分かるよう、分かれば対策も取れるかと思っておりますので、御指導御協力をお願いします。

#### 【坊良局長】

ありがとうございます。まずは順を追って一回りしたいと思っておりますので、次に参りたいと思っております。次に川代一枝委員をお願いします。座ったままで大丈夫です。

#### 【川代一枝委員】

保健推進連絡協議会の川代と申します。私たちは現在180名で活動しております。市の保健課の職員の皆さまとともに、特定検診の勧奨、そして年に1~2回、健康相談を各地域で開催しております。関連する分野、健康とか子育てとか、自殺に関して私が感じたことを少し申し述べたいと思っております。

自殺者の数につきましてはこちらのデータにあるようにそれほど変わりはないんです。なので、実際には今から皆様がこれからやったださる社会活動、そういったことがきっと将来的には良い影響を頂くのではないかと期待しております。

それと同時に、県の大塚先生、赤平先生の御指導を頂きながらゲートキーパーの講習を重ねてまいりました。より一層活動がどこまでできるのか、これからの私たちの課題ではないかと思っております。というのも、年に1、2回、保険健康相談を各地域で行いますと、ほとんど顔ぶれが同じなんです。できるだけ若い世代の方、もしくは今まで参加して下さらなかった方、そういうところに寄り添う工夫がやはり足りなかったのか、もうちょっとみんなで工夫しながらこれから取り組んでいきたい課題だと思っております。

それとやはり経済活動を支えるのは地域の生活だと思っております。そこにより密着して、地域のコミュニケーションを、特に防災に関しては地域のコミュニケーション能力の高さが一番必要なところだと感じるものですから、そこに特化して改めて180人で揉んでいかなきゃない問題を洗っていききたいと思っております。以上です。

#### 【坊良局長】

ありがとうございました。続きまして、川代利幸委員、よろしくお願ひいたします。

### 【川代利幸委員】

ミドリ久慈衣料株式会社の川代と申します。よろしくお願いいいたします。当社は、ミドリ安全グループの産業用ユニフォームを生産している会社になります。

久慈二戸地域のアパレル産業ですけども、2年前はコロナ禍で既存の商品の受注ができず。マスクだとか、医療用ガウン等の生産をして、何とか、維持していた、そういった会社が多かったかなと思います。去年は既存商品も戻って、マスクやガウンも生産しなくても良いくらいに戻ってきたかなと思います。昨年からですけども、コロナの影響で、海外からの物流があまり、うまくいっていないことと、去年から今年にかけて、円安がかなり進行しているということで、今まで、海外で作っていたものが、国内に戻ってきているということで、地域の工場はかなり忙しい状況になっています。どこの工場もかなり忙しい。10月、11月まで仕事が入っているという状況のようです。

振興局様には、毎年色々と御支援いただきまして、ありがとうございます。今年も5事業の支援をいただくことになっております。県北地域のアパレル産業の情報発信等により、知名度が上昇し、多くのメーカーと取引ができるようになってきているかと思えます。これは、私の要望なのですが、これからは人材確保に動いて、御支援いただけたらと思えます。

仕事があっても人がいなくて、全然生産できないという声をきいています。研修生制度もあるのですが、今、日本に来たい人が少なくなっている現状。当社でもグループの会社がベトナムにありますが、ベトナムの会社に募集をしても、来年、グループ全体で9人入れたいところで、募集している人が10人という状況です。これは多分、コロナもあるだろうし、円安になって、今、3割以上、目減りしているという状況がある。グループでこうなのだから、ほかの会社ではもっとなのではないかなと思います。ということで海外の実習生、研修生等にも、なかなか来てもらえない、という状況ですので、地域の若い人たちをどうにか、採用できるような、そういった支援をしていただきたいと思いますと思っております。

### 【坊良局長】

ありがとうございました。では、続きまして、堤内委員、お願いします。

### 【堤内委員】

洋野町で酪農家をしている、堤内です。

洋野町では、コロナ禍で、飼料費が上がってて、自給率を増やすように皆しているのですが、結局、子牛の粉ミルクや配合飼料という、乳量を増やす飼料は購入になってしまいます。それが、3か月に1回くらい2,000円ずつ上がっています。私たちは、TMRセンターに加入していて、何軒かで合同で同じ餌を使って配る、というシステムを導入しているのですが、始めた当初は、1,400円くらいでした。一頭当たりの餌代が。そこから、10年かけて、1,600

円くらいまで上がって、それでも高いと思っていたのですが。コロナで 2,000 円を超えました。もう、毎月やっても、トントンでいけばいいくらいで、ほぼ赤字です。今度、乳代が関東から、上がる予定なので、それが収入に少しでも増えてくれればいいなと思っていますが、どの程度期待できるか、やっぱり、もう少し過ごしてみないと、分かりません。

ちなみに、うちの地区は 10 年くらい前だと 70 軒くらい酪農家があったのですが、現在は 40 軒を切りそうです。絶滅危惧種なくらい、段々と減って行って、大体は高齢化です。続けていく意思のある酪農家さん、跡継ぎの見込める酪農家さんは、増築して牛舎を新しくしたりしていますが、コロナで収入が減っているのも、多分、どこの家もキツキツだと思います。跡継ぎができない、これから減るであろう農家さんも結構何軒かいて、なぜ目星がつくのかというと、お嫁さんが来ていない。お婿さんがくる家は結構あるのですが、お嫁さんが来てくれる家は少ない。家でばかり働いているので、10 年も働いていると、外との交流がなく、新しい出会いもなく、多分、あやしいんじゃないかと思っています。そういう点でも色々で見直していただければと思います。

#### 【坊良局長】

ありがとうございました。それでは次に藤織委員、お願いします。

#### 【藤織委員】

私は東京から移住して久慈市に住んでおまして、久慈市に住んで 7 年になるんですけど、地域おこし協力隊を 3 年やって起業して定住しているという形になるんですけども、資料 1 の最初ですね、県平均を超える人口減少ということで、やはり人口減少がかなり悩ましい問題かなと思っていて、取組の方向性としても 1 番に若者女性が活躍する地域づくりと書いているので、私も移住者だったりとか U ターンとか増えていけばいいなと思っているんですけども、今コロナでかなり地方移住したいという声も多くなっていると思います。関心の高まりもあるなど感じているんですけど、今でも U ターンとかにかなり力を入れて結果を出しているところもあるんですけど、そういったところは子育てだったりとか、極論言ってしまうとお金を、子育てのお金を医療費免除とかですね、かなり力を入れていて、そういったところは成果を出しているなと思います。あと、地域おこし協力隊は久慈地域増えていると聞いているので、地域の魅力としてはこの辺りあるだろうな、来たい人いるんだろうなと思うんですけど、単身世帯で来て、定住するとなったときに、本当に家族を養っていけるのかとかは問題というか、本当に定住に繋がる地域なのかなというのは、お金というか制度によるのではないかなと思います。今は地域おこし協力隊は単身で来られる方が多いんですけど、今後ファミリー世代とか U ターンで帰ってきてもらうためには、そのあたり力を入れて頂きたいなと思います。資料 2 の 11 ページに現行の地域プランに基づく施策の状

況ということで、地域で支える子育て支援というところが、子育て支援の店と子育てに優しい企業認証ということで、それは増えてるということになってるんですけど、これだけだとほかの地域には勝てる要素ではないのかなと実際思っています。もっと、今後の世代が頑張っていけるようにもっと支援を増やしていただきたいなと思うところです。

#### 【坊良局長】

続いて谷地委員お願いいたします。

#### 【谷地委員】

有限会社谷地林業の谷地譲です。木炭を作りながら、木材関係の仕事と建設業をやっておりますけれど、今木炭の関連でいくと、いろいろと御支援を頂きながら久慈地域の協議会で事務局もやっておりますけれど、その際に応援等もして頂いております。新しい取組おも含めて色々と支援頂いておりますが、先ほどの酪農家の部分とか水産関係と同じように、第一次産業の一つですので、どうしても個人でやっている方が多く、高齢化の問題と後継者問題があります。今現在 100 名ほど県内で木炭の生産者いますけれど、平均でいくと、たぶん 70 を超えてきてるんじゃないかなと思います。そうするとここ 10 年くらいで一気に生産者の数も減っていけば当然ながら生産数も減っていくというような状況がみられるところまできているのかなと思います。早急に業界全体でもそうですが、生産する方々の数をいかに維持しながら、生産量を効率的にアップしていく方法を考えていかないと思っております。資料にある通り、木炭の、林産物の生産額も今年度も更に減っているかと思っておりますけれど、コロナによって飲食店等、首都圏含めて停滞した影響もあって、一気に減ってきたというのが現状です。人がいない分どうやってやろうかというのを考えるとやっぱり若い人たちが入ってくる仕組みを作らなきゃなと思います。それには収入を安定化させるための政策が必要、木炭だけじゃなく、その他一次産業なのかほかの仕事も含めて、ミックスさせてその人たちが一定の収入をできるような仕組みを作りながら提案して行って、多くの人が残っていけるような状況を作っていかなければと思います。人材を木炭とほかの産業とのシェアリングをして、空いた時間等をいかに有効にその人が働きながらいろんなところに顔を出して手伝いをしてもらうのも一つの手だと思います。この地域にある産業を木炭だけ見るんじゃなくて林業だけ見るんじゃなくてほかの産業も見せてあげながら一緒に彼らの時間を有効的に使ってその収入に充てていけるような仕組みを作っていければいいのかなと思ったりします。そのほかは、林業関係でいけば、現在久慈地域の協議会を作っていましたが、こちらのほうでも東高校さんの方への出前授業等、現地に来てもらって体験してもらうのを年 2 回、7 年くらい、支援を頂きながらやってました。毎年一人から二人、最近は二人から三人くらいずつ企業に入っていき若い子たちも増えてます。これは岩手林業アカデミー含めて活用させてい

ただいています。これからの問題は定着をどうさせるか、安定的に定着させるために私たち企業のほうの努力が必要になってくるところもありますので、こういったところを自分たちで解決できないものがあるので、ほかの産業の皆さんも含めて、御意見等を交わす場所があって、企業の安定をするってところに含めて考えていければと思ってました。ぜひともほかもそれぞれありますので、情報交換できればと思います。

**【坊良局長】**

ありがとうございました。ここまでで久慈会場の皆様から一通り発言を頂きました。共通しているのは人口減少に伴う後継者不足と、一番の重要な課題、地域での活性化、コミュニケーションをしっかりとっていく、これも人が減っていることが影響しているのかなと思ったとこととでございます。

(休憩)

**【坊良局長】**

それでは、再開したいと思います。二戸会場の方はよろしいでしょうか。  
それでは続きまして、二戸会場の委員の皆様から、御意見を伺いたいと思います。  
まず初めに、阿部委員、お願いいたします。

**【阿部委員】**

私はプレステージ下中町ひまわりという、障害のある方が就労をする、働くことを支援する事業所で、管理者をしております阿部歩と申します。

プレステージ下中町ひまわりという、就労の事業所の中に、「町家の食べ処福わらし」というお蕎麦や、うどんをお出しする飲食店を、就労訓練の場として、運営しております。なので、二戸の皆様にはたくさんお客様として、来ていただいておりますし、福わらしを立ち上げる時には、久慈にあります「鬼は内」というお店で、修行させていただいて大変ありがたかったなーと思っております。

私からは福祉の分野について、お話すればいいのかなと思っておりますけれども、サービス自体は、障害、高齢者介護、児童の分野でもサービス自体は充実しているのではないのかなと感じております。ただし、サービスを提供する側の人材不足は、本当に深刻ではないのかなと思っております。あまりいい言葉ではありませんが、人材の奪い合いというような現状になっているのではないのかなと思っております。ハローワークなんかに行って求人を探そうと思おうと、ガッカリして帰ってくるような、といった状況です。サービスを利用する方々、御家族の方、児童につきましては保護者の方、障害のある方については、御本人様も、もうイン

ターネット等、楽に使えるぐらいの方々サービスを利用しておりますので、地域のというよりは、中央の、東京であったりとか、ちょっと進んでいると言われていた方のサービス、新しいサービスが、質ですね、そういったものを簡単に SNS 等で情報を得られますので、皆さん質の高いサービスを求められます。我々も、もちろん応えたいと思っておりますが、人材がない。未経験者歓迎という状態であります。福祉であるとか児童教育であるとか、そういったことを勉強してきた方が残っていない。というような現状なので、質の高いサービスを提供していくためには、とにかく各事業所等で努力していかなければいけない、そういうところが苦しいと思って、仕事しております。人材不足を補うために、ICT等、いろいろ活用は言われているところではあります、業種の性質上、結局は人と人の信頼関係で成り立っているサービスですので、そこについては人間力が求められますので、専門性のある人材がもっと欲しいなど、それぞれの事業所で思っているのではないのかなと思っております。

あとは、私自身が、子どもが3人、今まさに子育て世代という、午前中も小学校のプール当番をしてきたんですけども、はい、汗を拭いてきました。子育て世代の一人として、意見を言わせていただきますと、子どもの数が減っているというのは、全国各地あることで、私が子どものころから言われていることですので、あまり驚かないのですが、それよりも、子どもがいないのではなく、親がいない、大人がいないということに私はすごくびっくりというか、危機感を抱いております。親がいないので、子どもがいない、世帯数がいない。本当にここ数年、グンと減っているなというような感じがします。親が、親世代が働きたいと思うような地域だったり、例えば、この地域で結婚をしたいなと思うことだったり、生活をしたいこう、子育てをしていこうと思えるような地域になっていかなければ、このまま人口減少には、歯止めはかからないのではないのかなと思っております。

先ほどの資料では、人口移動が進んで、東京から地方移住が進んでいるというデータもありましたけども、これに関しては残念ながらちょっと実感できていなくて、人口移動が進んでいるのであれば、なんとか、その人たちを、この地域に呼びたい、その勝負に打ち勝っていかなければいけないのかなと思っております。子どもに向けた施策というよりは、働く世代、現役で働く世代が幸せになれるような、独自性のある、また、ユーモアがあってインパクトがある施策があればいいなと思っております。

#### 【坊良局長】

ありがとうございます。続きまして、小松委員、お願いします。

#### 【小松委員】

こんにちは。小松製菓からまいりました、小松由佳と申します。会社では、販売・企画や

通信販売、自助工房 四季の里という、おそば・天ぷらの提供をするお店を管理しております。

このコロナ禍で、ここ3年ぐらいで変わったことと、変わっていないことがあります。

変わったこととしては、ここ1年ぐらいのことですが、非常に原料の値上がり、小麦粉のものすごい値上がり。去年から、2回、3回と値上がって、また、つぎまた、値上がりがありますと取引先から言われているんですが、油、ガス代、電気料、全てが値上がりしましたので、値上げせざるを得ないので、弊社でも商品の値上げをいたしました。四季の里の方でも、天ぷらに油を使ったり、二八そばに小麦粉を使ったりしてるんですけども、ほとんど値上がりますので、四季の里の方では、これを機会に、国産に、そばはそもそも地元のものなんですけど、二八の二割の小麦粉は国産と海外のが、混合してたんですが、それも全て国産に変えて、油も全部国産に変えることで、どうせ高いなら国産のものを使って、日本に少しでも還元できることができればいいなと思って、全部変えることにして。

あとは、通信販売の方では、システムを、昨年導入して作業工数を削減して、ペーパーレスを行って残業代を大幅に削減できるようになっています。対外的には、ホームページを改善して、皆さん検索してきたときに、GoogleとかYahoo!とかから検索してきたときに、1ページ目、2ページ目ぐらいじゃないとクリックしないと思うんですが、SEO対策というものをして、ランキングを上げるんですが、あと、Googleで検索してきたときに、画像が表示される順位はSEO対策というものをすると上がる、その対策をして、収入を増やすというようなことができるようになって、それが変わったところ。

そして、変わっていないところというところ、皆様何度もおっしゃるんですが、人手不足。募集してもなかなか来ない、去年は、Uターンの方が何人か弊社の方に途中で入社していただいて、地元ではなかなか持っていないスキルを持っている方に入っていただいたりしたんですけども、もっと、Uターンの方が増えるといいなと、やはりすごく思います。若い方は、20代前半の方々は、どうしてもやはり一回チャレンジしたいという思いで、外に出ていく方が多いので、そこを止める事はできないと思います、でUターンを進めるような施策ができるといいなと、感じています。

私、観光役員ですので、観光の視点から申しますと、今年、弊社の店舗2doorで、3年ぶりに2doorフェスというのを開催しました。イベントの、地域おこし協力隊みたいな方とか、アンダーエイジとか、イベントの内容は全部2doorの前にある芝生の外で行ったんですね。コロナ禍ですので、外で行って、たくさんのお客様に来ていただいて、楽しかったというコメントもたくさんいただいたので、このコロナ禍だからこそ、岩手にたくさんある自然を生かしたイベントを積極的に行うチャンスと捉えて、様々な催し物が実施されれば県外からたくさん人を呼ぶことができるかなと思います。二戸とか県北をもっと発信して、ブランドとして訴えていくということをしないと伝わらないので、そういう発信をしていくのは大切かなと思います。

**【坊良局長】**

ありがとうございました。続きまして、田家委員、お願いします。

**【田家委員】**

田家亘と申します。よろしく申し上げます。3分で終わらせたいので、自己紹介は抜きにして、早速始めます。私は観光問題。観光に関わることと、環境に関わることをお話したいと思います。

観光ですけども、やはり本当にコロナの影響で、とても少ない状況にあります。市内のホテルに関しては、風力発電の工事などでいっぱいにはなってますけども、とても厳しい状況というところがございます。以前（コロナ前）は、インバウンドがすごい盛んな時で、色々と、来たお客さんに対して、色んな事をやられてたかと思うんですけども、今、お客さんがいない時になにができるかと。私どもの地域には、御所野遺跡、そして、漆掻きという素晴らしい財産がありますので、そちらを活用した観光振興策というものをやっていただきたいなと思っています。

そして、環境問題ですけども、なかなか、環境問題って花形ではなく、地味な方。我々は日常的に、ひねれば綺麗な水が出てくる環境で生きてますので、そのありがたみも分かっていないという状況であります。そして、地経費の表も見させていただきまして、とても我々の地域にすごい予算使っていただいて、ありがたいことではあるんですけども、その中でも環境に関わる分野、すごい低いなと感じるところであります。環境問題って、意外と評価が高い部門ですよ、ただし、こちらが良くなってくると、県民の満足度・幸福度に、とてつもなく効果が高いのになど。産業など、必ずではございますけれども、効果がすごい目に見えますから、私の個人的な感想ではありますけれども、日々の業務、こちらにも力を入れていきたいなと思っています。

また、先ほどから少し人材不足というところが出てきておりますけれども、そちらもお話させていただきますと、小売りを私もやっておりまして、最低賃金の上げが、すごい上がっている。いくら雇いたくても雇えない。新しい人を雇うといった場合に、以前の人たちの給料も上げなくてはならない、とてつもなく人件費がかかる。多分、今年度も上げていくという方針でしょうから、すごい、経営管理的には、頭を抱えていると思っています。以上でございます。

**【坊良局長】**

ありがとうございました。続きまして、古舘英彦委員、お願いします。

## 【古舘英彦委員】

こんにちは、古舘です。よろしくお願いします。

私は、ユネスコ代表ということで、一戸に住んでおります。ユネスコについては、平和というのがキーワードです。ところが、世界平和というのを私たちは話をしながら、個人の心の平和っていうのも話をしてるんですが、今その、世界平和を別の団体で話をしている、ちょっと戸惑うといいますか、平和をどのように皆さんに話をしていたらいいかと、ちょっと今気をつけなきゃいけないと、世界平和とこう、喋っただけではだめだなと、ということをやちょっとこの頃考えております。

それから、どういう成果があったかという話であります。まずは御所野の縄文遺跡が世界遺産に登録となりました。そういう意味では皆さんに御支援いただき本当に良かったなと思っております。また、その後、コロナがかなり蔓延して、一大問題、コロナでのキャンセルがあって、入場者等、ダウンしたんですけども、今は大分持ち直してきたんですけども、また、こういう状況ですからね。

振興局として、一戸の御所野絡みの博物館やら一戸駅やら、そういったもののリニューアル等についても、補助してやっているということで、私は知りませんでした。資料を見て、本当にありがとうございます。感謝申し上げます。そういう、ハード面は良かったと思いますが、ソフト面ではやっぱり、色んなイベントが中止になったと、なかなかPRできなかったなど。

その中でも、IGR に漆と縄文の電車のラッピング、あれはすごいインパクトがあったなと思っております。月に何度か、盛岡に行きなので、そういう意味では良かったなと。縄文のバスが盛岡市内を走った一番最初の時も同じでビックリしました。ああいったことが、やられたらば、すごいインパクトがあるんじゃないかと、そういったところで御所野については、良かったかなと思っております。

私が今大変だなと思っているのは、御所野のことだけではないんですけども、一戸のアンテナショップも辞めてしまいました。

また、縄文発電ですか、電力会社も秋にはどうのこうのと、ちょっと噂を聞いたり、(真偽はわかりませんが) そういったところもあったり。私もソーラーを家で 10 数年やっています。そろそろ単価がグンっと下がって、国の方針に、こう全く左右されながら、国はこういう風にして、再生エネルギーをやろうとしているのかと。個人的にもそうだし、今、北いわてとして再生エネルギーに、もっともっと取り組んでもらわなきゃならない、大事なことじゃないかなと思っております。今、ロシアとかウクライナのこともありますし、本当に真剣に取り組んでもらいたいと思っております。

それから、先ほど縄文が世界遺産になったと言いました、やっぱりこの地域から、日本を代表するようなもの、世界に誇れるようなものを、そういったものを育てていく、あるいは作

る、そういったことがすごく大事ではないかと。素材はいっぱいあるんだろうと、それをどう磨き上げてPRしていくかと。ということで、その辺のところもよろしくお願いします。以上です。

#### 【坊良局長】

ありがとうございました。続きまして、古舘裕樹委員、お願いします。

#### 【古舘裕樹委員】

こんにちは。十文字チキンカンパニーの古舘と申します。

このように古舘3名が並んでいる環境というのはなかなかないことと思います。当社十文字チキンカンパニーは、名前の通り、鶏を飼って、鶏肉を生産している会社でございます。今日呼ばれたのは、再エネに関してということですので、我々の方では、鶏から生産する段階で発生する鶏糞、よく嫌われものとよくいわれるんですが、この鶏糞を利用して、バイオマス発電をしております。そういったところをある程度評価して、今日呼んでいただいているのかと思うのですが、まずは、体験も含めて簡単にお話させていただきます。

先ほど、人材不足という話がでましたが、当発電所は、営業運転を開始して6年になります。6年で、高卒の採用が8名、実際20数名の事業所なので、ものすごい採用をできているという状況です。ただ、このように希望して来ていただけるのは、当社の事業所でも、実は発電所だけで、ほかの処理工場なんかは非常に人材不足、皆さんのおっしゃった様に人材不足で苦労しています。今の若い方は、再エネに関してものすごい興味を持っている。なんとか、地元の力になりたいということで、うちに就職される。ですが、なかなかほかに受け手が少ない、ということで、沿岸あるいは県南の方に、就職される方が多いと聞いています。ですので、もっと魅力的な職場は、職場の魅力をうまく伝えられれば、もうちょっと若い方に来ていただけるのかなと思っています。

あと、太陽光、風力に関しては、見た目でも、非常に設置が進んでいて、素晴らしいなと感じるのですが、周りの人間から聞こえてくるのは、再エネが導入されているけど、その恩恵を受けているという実感が全くない、というところなんです。1つ、具体例では、雇用が意外と生まれていない、県外の事業者、県外の工事業者、ホテルはいっぱいです。だけど、近くの友達や知人がそこで仕事しているという話は一切聞こえません。特に、太陽光なんかは、完成後はほとんど無人ですよ。20年間、30年間、電気を売ると思うんですが、そこで雇用が発生してこないというのは、非常に大きな問題じゃないかなと思います。一部の方は土地の賃借料とかで、恩恵を受けている方もいらっしゃると思いますが、本当に一部になってしまいます。というのは、1つの問題かなと思っています。

また、鶏糞の話に戻らせていただくんですが、鶏糞というのは、イコールもう産廃と言わ

れます。動物の糞尿、あと汚泥、これらイコール産廃というレッテルが貼られているんですが、意外とエネルギー源としてポテンシャルを持っているという風に感じます。このポテンシャルをうまく活かせるかどうかというのは、やはり行政の方で、いかにハードルを下げられるか、利活用にハードルを下げられるかどうか、ということに懸かっているんじゃないかなと思います。私からは以上です。

#### 【坊良局長】

ありがとうございます。続きまして、最後になりますけれども、古館拓委員、お願いします。

#### 【古館拓委員】

軽米町の古館製麺所の古館です。軽米町で、製麺所、麺類、ラーメン、うどん、そば等を作っております。

岩手県さんというか、地域振興センターの支援を受けまして、地元での販売が、人が居ないということもあり、なかなか厳しい状況となりまして、毎年首都圏の百貨店の物産展などで、出店して商品を販売しています。おかげさまで、続けて出ていることもあって、認知度も非常に高まっており、物産店での売上げが年々増えてきていまして、今年の3月に日本橋高島屋で開催した、岩手の物産展では目標額の倍ぐらいの売上げがありました。

コロナ禍で百貨店業界も厳しい状況でして、物産展での売上げは、コロナ禍でも落ちることはなかったんですけども、百貨店が経費のかかる物産展を開催する機会が少なくなってきました。3月に行われた、この岩手の物産展でも、結構、かなりの額を岩手県さんの方から百貨店に出していただいて、開催することができたと聞いておりました。今後も、岩手県からの支援を受け賜わって、なんとか物産展の機会を続けていただければいいなと思っています。また、県北振興局の方で、毎年、商談会や物産展に参加する補助金を出していただいて、私もそれを活用していたんですけども、今年は予算がついてないという話を聞いたので、是非そちらも続けていただければと思います。

あと、軽米町ということで、再エネの話ですけども、今度また、最近、軽米のあちこち山を切ってソーラーの建設がずっと進んで、今、軽米の高家地区の、結構大きな山の上半分ぐらい全部切って、一面ソーラーパネルになってます。私としては、恩恵を受けてないのがありますが、非常にめぐさいというか、見てて、悲しい気持ちです。再エネの推進というのは世界的な流れで、進めていかなければならないんですが、なるべく、木を切ったり、山を削ったりしない環境にやさしい形での再エネ推進を行っていただければと思います。

### 【坊良局長】

ありがとうございました。皆様に順番に発言をしていただいて、一通り発言していただいたところでございます。

本日皆様に共通している部分は、人材不足、人材確保をどのようにすすめていくかというところが、共通した課題だったのかと思います。その部分については、後ほど掘り下げていきたいと思うのですが、ざっと、久慈会場・二戸会場からそれぞれから御発言いただきました。それぞれ御発言いただいた内容に、こういうところを付け加えたいとか、皆様の方から、ランダムに、御意見等があれば発言をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

特にないようであれば、人材不足の取組のところを少し掘り下げていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、人材不足、これは第一次産業（農林水）については、お話でもありましたけれども、アカデミー事業でもって、就業者も徐々に出てきているというところでもあります。また、新卒の高卒のところでは、インターンシップですね、地域の仕事の紹介をしているところでもあります。行政としては、新卒に対してはそういうようなことをやっている。一方、働き世代といえますか、既卒のところに向けては、まずはUターン、Iターンしていただくということで、首都圏では、いわて県北を含めた情報発信をして、住宅の面では家賃補助等をしているというようなどころでございます。さらには、地域のために何かしようということでお越しいただく地域おこし協力隊の方々にも、任期終了後には地元に残っていただくような取組をしているところでございます。

こういった中で、様々取組をしてきているのですが、もっともっと、こういうふうにしたらいいのではないかとといったような御意見があればお願いをしたいと思うのですが。新卒（高校を卒業された方、あるいは大学を卒業される予定の方々）に、情報発信というか、我々がアプローチして効果があると思われる、何かみなさんのお考えがあれば、まずはお聞きしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

谷地委員、どうぞ。

### 【谷地委員】

まず、この地域にどんな産業があって、どういったところに人が足りないか、どういった人たちを募集しているか・要望しているかというところを、生徒さんもそうなんですけれども、学校、先生たちと、きちんとお話しする場面があればいいなと思っています。リクルートの活動をしていると、よくあるのは、この学校の生徒さんたちは、どここの地域に行くのはほぼ決まっています、お分けするというわけではないのですが、こちらの地域に残ることはありませんというただ情報は結構入ってきます。以前（コロナ前）は、何回かお

話しする機会があったのですけれども、コロナに入ってから、そういう機会がない状況です。でも、結構情報を持っているのは先生方、特に就職担当の先生方が情報をきちんと持っているはず。生徒さんたちがそれほどたくさんを知っているかといえば、どこから仕入れるかという、やっぱり学校の先生から聞いていたりするということが多くあると思いますので、ぜひとも、先生方、特に、高校からもうすでに盛岡に行ったりとか、私立の学校に行ったりとかする人たちも多いと思いますので、そういった部分まで手を広げながら、高校卒業と同時に、またここに就職してもらおうということも含めて、学校の先生たちに、この地域のことをもっと理解してもらおうようなことを考え、場所をつくってもらおうかと思っています。

#### 【坊良局長】

ありがとうございます。そういった関連の取組も若干進めておりますが、そういった中身を少し説明してください。

#### 【熊谷産業振興室長】

産業振興室の熊谷でございます。今谷地委員さんからお話があったような取組では、学校の生徒さんには、業種理解セミナーというのを毎年開催しております、この地域（久慈地域）にはどういう産業があるかというのは、生徒さんには伝わる取組をしています。

また、久慈市さんと連携をして、キャリアオーケストラということで、中学2年生の職場体験と併せていろんな業種を知るという機会を、キャリアオーケストラと社会体験ウィークということで取り組みはじめ、その仕組みづくりができたのですが、コロナ禍で3年前に1回やって、そのあと残念ながらできておりません。今年度は是非やりたいと思っております。

あと、進路指導の先生方への理解を広げてほしいという話については、そういった取組を通して先生方にも理解を深めていただきたいと思いますし、また、振興局に配置になっている就業支援員が各学校の就業支援をしておりますので、そういった中でも情報共有しながら進めさせていただきたいと思います。

#### 【谷地委員】

去年1つあったんですけれども、去年当社就職を希望していた生徒さんが今年、林業アカデミーに行っています。最初当社に入ろうとして来られたんですけれども、林業アカデミーにぜひ行ってもらって、そこで勉強してきてくださいということで、学校の先生にもお伝えしたんですが、学校の方から、それは行かない方がいいというお話が出たという場面があります。きちんと林業アカデミーがどういうものなのかという説明もやっぱりしなければならぬし、その後就職に向けて、学校に入ってからまた当社に来てもらえる仕組みもきっとあり

ますよということは説明するんですが、なかなか、今までやってきたことがないことを理解する力不足かなというところもありますので、ぜひとも。岩手県がやっている事業に対して、学校の先生が理解しないのは少しおかしいんじゃないかなとも思います。学校の先生がというわけではないですけど。批判ではないです。そういうところが、もうちょっと連携がとれながら、きちんとやっていけたらいいのではないかなと。水産の方も始まってきたわけですので、そういった部分で、コントロールする方々がよく理解しないと、間違った方にコントロールされて、生徒さんたちのこれからの進路・人生に大きく左右してくることもありますし、当地域の人手不足の解決についても、一生懸命やっているところ、何か阻害されているような気がしてしまうので、そういったところ、もっともっと理解し合えるような状況を作っていければいいのかなというふうに思っています。

**【坊良局長】**

ありがとうございました。藤織委員、どうぞ。

**【藤織委員】**

移住のところで、他地域の例でいいますと、引っ越し料金を免除とか無料にするとか、これも条件はあると思うんですけど、そういうのをやっている地域もあります。それから、ファミリー層のJIターンを狙うときには、空き家を買取るのが助成金でちょっと安く買えたりするのもあるそうなんですけれども、久慈の場合には、空き家バンクに今2軒しか登録がないという状況で、どうして2軒なのかというのも私も勉強不足で分からないんですけども、空き家は絶対すごくたくさんあるはずなのに、空き家バンクの登録が少ないと。結構出ると買いたい方もいるみたいなんですけれど、そこはどうなのかと思うところです。

**【坊良局長】**

空き家バンクで知っている方いますか。じゃあ私が。

前の職場の時に、空き家バンクの登録が、久慈だけでなく岩手県全体として低いですね。我々が見ていても、どう見ても住んでいなくて建っているなというところもあるんですけども。やはり、その所有者の方（相続をされた方等権利のある方）にアプローチをしても、なかなか自分の育った家をすぐ手放すということには、まだまだ意識の部分があって、思い切って踏み出せないという部分も、登録が進まない大きな要因としてあるみたいなんです。県も市町村も一緒になって、そういった制度的なこと、持っていれば金銭的な、固定資産税がずっとかかっていくこともありますし、古くなってくると自然倒壊して、周りの人にも迷惑をかけるかもしれないといったようなことをお知らせしながら、徐々にそういった意識を変えていかなければならないといったような取組もしております。

一方で、そういうバンクの登録制を知らないという方もおりますので、そういったところは、様々な広報を通じてPRしたいというようなところでは、藤織委員の言った通り、これを我々もなんとか活用してきたいと。地域おこし協力隊で地元に残っていただいている方も、そういったようなところを活用している事例もありますので、そういったことを紹介しながら、上手くマッチングしていければいいのかなと思います。ありがとうございます。

そのほか、皆さんから何かありませんでしょうか。

川代委員お願いいたします。

#### 【川代利幸委員】

UI ターンの住宅支援補助金について、少しお伺いしたいです。どれくらい補助してくれるのか。引っ越したとか、アパートの補助とか、そういったものがあるのか。

#### 【及川林務部長】

林務部の及川といいます。

県産材を使つての支援というものがあつて、これは新築・リフォームで、移住の面ではないんですけども、次世代木材利用創出として、若い子どもさんがいる世帯への加算という部分ではあります。様々なメニューを追加してつて、最大 100 万円の支援というのは、木材関係の方の支援としてはございます。

#### 【坊良局長】

今の質問については、データを今持っていますので少しお待ちください。

その数字によっては、それでは少し少ないから、インパクトが少ないのではないかというお話でしょうか。

#### 【川代利幸委員】

U ターン、I ターン等で東京方面に求人票を出したいなど。なかなか給料を高くできないということがあつて、東京の専門学校等に求人票を出そうとしたら、「これじゃあね…」という。住宅費だとかの補助とかそういうのがあれば、いろいろ考えてもらえるのだろうけども、というような話もあるんですね。会社だけではなかなかそこら辺もできないので、県とかにそういった支援があれば、「このくらい県から支援がありますよ」という紹介もできるかなというところでは。

#### 【坊良局長】

わかりました。少しお時間をいただいて、後ほどお知らせします。

そのほか、皆様から、人材不足で、新卒の方でもいいですし、もっとUターンを進める、定着につなげるためにはこういったことがあればいいのではないかという意見があれば、お伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

お願いいたします。

#### 【小松委員】

応募をするときに、今ある人口が、働ける世代、人口を増やすという方向で考えると、UターンとかIターンとかになるんですが、今ある人達の中から働く人を生み出すというところでは、例えば介護をされている家に居なくてはいけない方とか、子育てをしている方とかで、働きたいけれども、1時間か2時間しか働けないという方が、たくさんいらっしゃると思うんですね、働く受け側の方が、2時間から相談に応じますとか、時間の制限をしないで募集することを、それが両者にとって良いことではないかなと思います。

#### 【坊良局長】

ありがとうございます。

「3時間だったら働けるんだけど」とか「1日おきだったら働けるんだけど」とかいったような、地域の、すぐ労働に結び付く方々を、雇う方の側として、少し工夫をしてやってみようかという方策の1つですね。ありがとうございました。

そういったような考え方もあると思います。私の記憶では、久慈管内でブローラー企業さんが、女性の方々の作業で、今言ったような、働く方の都合に合わせたローテーションをうまく組み合わせて、仕事を進めているということで、定着率が非常に高いという事業者、企業名は忘れちゃったけれども、そういったような取組が以前、新聞等で紹介されておりましたので、本当にそういった意見も大切なところでありまして。ありがとうございました。

そのほか、ないでしょうか。

次に、地域おこし協力隊なんですけれども、県内、全国的にもそうですし、久慈地域でもそうなんです、これからは、Uターン・Iターンの1つでもありますけれども、この地域のためにという思いでいらして数年後に任期が終わった後、定着していただく、まさにここも一つのポイントではないかと思っています。私の記憶では60%~70%くらいが岩手県の定着率なんで、意外と全国平均よりも高いんですけれども、こういった方々が地域に定着していただくためには、どのような取組が必要かという視点で御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

藤織委員、まさに経験者でありますから、出だしのところをお願いできればと思います。

### 【藤織委員】

地域おこし協力隊で私も残りましたし、起業して残った方もいるんですけども、今後、起業というのも、インボイス制度が始まると、かなり厳しくなってくるのかなというのが正直なところですよ。初めて起業してこの地域でやっていくというのがなかなか。コロナがあって、円安があってとなると、本当に厳しいのかなとは思っています。なので、難しいですけど、この地域に住みたいという制度的なものですね、医療費が無料だとか、暮らしやすさだったりとか、そういうところが、一番重要視されてくるのかなと思います。もちろん、地域おこし協力隊で来る人は、産業だったり、地域の魅力があると思って来てくれる人がほとんどだと思うので、暮らしの部分でも魅力を感じられれば残れるのではないかなと思います。

### 【坊良局長】

生活をしていかなければならないので、起業のところを手厚く支援してはどうかというところが、1つのポイントとなるのでしょうか。

### 【藤織委員】

起業する方も、就職する方も、地域おこし協力隊だといっているんですけども、起業する場合は、起業支援もかなり充実させていただきたいと思います。インボイスが始まれば、どんどんお金がとられるということになるので、これからはかなり、挑戦するにもどんどん苦しくなっていくのかなというところがあります。

また、就職する方でも、生活費を稼ぐのに、普通に就職をしてお給料をもらって家族を養うことができるのかというと、結構不安がある部分があるのではないかと思います。今後、例えば結婚して子育てをしていくというところで、結婚をして子どもが生まれて、「ここでは住めない」といってみんなで抜けられても困るじゃないですか。やっぱり、「ここで暮らしていく方が安心だよ」「楽だよ」というような、お金の部分だったり、生活の部分の制度だったりとか、そういうところを充実させていただければなと思います。教育とかもそうですけれど。

### 【坊良局長】

二戸の地域の方で、地域おこし協力隊や、定着していただくため、こんなことをしてはどうかといった意見はありませんでしょうか。あればお願いしたいのですが、どうでしょうか。

### 【古舘英彦委員】

いろいろ、今、話しがあったと思いますが、御所野遺跡も観光で来てもらおうと、それがリーダーとして、交流人口の増につながればいいし、それが、移住に繋がればいいと思います。

すが、何が大事かという、住んでいる我々が地元を誇りをもつというか、今の子どもたちは本当に地元に住みたいという希望が昔に比べ、多いと思います。そういう意味では、今は良いチャンスというか、大谷とか、菊池雄星とか、佐々木朗希だけでなく、それで岩手のイメージもかなり変わってきていると思います。あと、昨日、一昨日ですかね、自殺率が今まで下の方だったのが、25位に上がっていました。幸福度でいうと、32番ぐらい、今まで40番台だったのが32番ぐらいにあがったと、そういう意味で、色んな所でそれぞれ、頑張ってきたのが岩手のイメージアップにつながってきたと思います。コロナが最後まで、でなかったのも岩手でしたもんね。やっぱり、自分達の地元を誇りを持てるように、育てるとか作るとかそういったことがすごく大事ではないのかなと。

私、学校に勤めていたので、大事だと思っていたのは、移住にしてもなんでもですけども、大事なのは、まず、教育がきちんとしてないと、他から来る人は子供を連れてこれないわけです。だから、ある程度の学力を持ってる地域でいなきゃないと、というのが一つです。あとは、文化です。文化がある程度、民度と言って言いか分かりませんが、色んな文化がここにはいっぱいありますからね、それは大丈夫だと思います。あと、医療です。お医者さん、いつでもかかれる所があると、ほかから来た人は安心して来れると、そういう医療体制はきちんとしていくということも大事です。最後、四つ目は、福祉です。終末をここで迎えても良いと思えるような地域にするということです。この四つをそれぞれの分野で頑張っていたことが、すごく大事ではないかと思います。それが、さっきの幸福度やら自殺者数の減少やらにつながっていくことが、ひいては、イメージアップにつながれば良いと思っています。

#### 【坊良局長】

多分野に及んで御意見を頂戴いたしまして、ありがとうございます。

自殺率は、これまで全国で青森、秋田に次いでという形になっている中で、前回直近のデータでいけば、全国平均を下回るような、自殺率が低くなっているということです。それは岩手の今までの取組が実を結んでいるのかと思っています。

あとは、移住・定住にしても、地域に残ってもらうためには、やはり医療が充実している、いわゆる不足を感じさせないという部分だと思いますけれども、そういった福祉の部分が大切だというお話をいただきました。ありがとうございます。

そのほか、何かありませんでしょうか。谷地委員どうぞ。

#### 【谷地委員】

どっち側に主体性があるかというところの話ですけども、地域おこし協力隊を全国に募集してこちらのほうに来てもらうわけですけども、ただ、来てもらうに当たって、この地域の課題は何なのか、それを解決する人材が欲しいのか、ただ働く人が欲しいのかという

ところの、要はこちら側サイド（受け入れる側サイド）の意識がどの程度まであるかというところなのではないかと思うんです。この地域に足りないものは本当に何なのか、その足りないものをカバーしてくれる人材が、この地域に入ってきていただければいいのかなと思っています。例えば、営業力が足りなくて、営業が得意で地域のことをたくさん営業してくれるような人材に来てもらって、そうすれば、私たちの木炭であったりとか、この地域の海産物・農産物を含めて販売をするというところにつながっていきます。そこがきちんとまわり始めれば、産業として収入がアップしてくれば、子どもたちも残っていくでしょうから。

例えばそういった考えのもとで、どういった人材を集めるかということは、多分にこれは各市町村だけでなく、もっともっと県全体を含めて、この地域に足りないものは何だろうか、どういう人材が足りないのかというところを、きちんと募集していくのが、最初のスタートではないかと思います。

僕は遠野の方々と何回か交流しましたがけれども、そういったところで足りないものは何だろうということをきちんと明確にして、事業化している地域、市町村なんだなと思います。そこで、新たな産業が生まれたり、サポートする人たちがどんどん入ってきたりという好循環につながっているんじゃないかなと思います。

「何もないけれどとりあえず来てください」といって来たらどうするんだと、3年経ったらどうしましょうかと、そこから考え始めるというところは、順番が間違っているのではないかと思います。ぜひとも市町村でのリクルートで、どういった人材をリクルートするかということを抑えてもらえたらいいかなと思います。

### 【坊良局長】

新しい視点だと思います。今までの UI ターンは、「岩手にはいろんなものがありますよ。なんでもありますよ。住みやすいですよ。どうぞ来てください」と言って、どうやってやるかは来る人が考えてくださいという部分はあったかもしれませんが。谷地委員は、いわゆる即戦力、地域課題を解決するためにこういう人を求めているのだと。要するにやることがあるわけですね、こちらに来て、目的意識が明確になっていると。そういった人が来れば、地元でも来た時にそれが業になって、定着していくんじゃないかというような話だったかと思います。

それに関連しますと、今日配っている「遠恋副業課」というのがあります。これは、岩手県と関連する全国の人たちとのつながりを増やしていきましょう、関係人口を増やしていきましょうという取組で、地元が困っていること、今いった「販路に困ってますよ」といったことを提示して、首都圏で、様々な企業に勤めていて、そういう業務、バイヤーとか、「これは手伝えるよ」というような方とマッチングする仕組みです。これは、一時的にこちらに来て応援をしていただくというパターンなんですけれども、そういったことを本業にしてこ

らに来てもらって、地域の課題を解決していただく取組、それも1つの意見だと思いました。ありがとうございました。

そのほか、何かありませんでしょうか。

それでは、少しテーマを変えまして、皆さんの方から言われていました、特に二戸地域の方から意見がございました、再生可能エネルギーです。地域振興プランでは、県北地域は再生可能エネルギーのポテンシャルが高い地域ということです。それは、風力であったり、太陽光であったり、様々な種類のものがあるんですけど、今盛んに風力を山地間に配置をされる、洋上風力の計画もある。一方では、軽米町を中心にソーラーパネルが設置され、太陽光発電をしているということでもあります。

お話の中で、ややもすると自然が破壊されるのではないか、そういうようにならないような再生可能エネルギーの使い方があるのではないかというような話がありました。青森県と宮城県の知事も、山林での再生可能エネルギーの設備を作るのは、もしかしたらやりすぎで、自然破壊につながるのではないかという懸念を示したりもしています。そういう話が二戸地域の方からもありましたけれども、その点について更にコメントをしたいという方があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

#### 【藤織委員】

やはり、木を切り倒すことで土砂災害が起こるんじゃないかという不安は、非常に分かるような気がします。その辺りも計算をされているのだと思うのですがけれども。

それから、私は、環境緑地学科というところを卒業しているのですがけれども、その時は風力発電に対して、風力発電は猛禽類への影響がかなりあるのではないかとされていて、景観的にも少しどうなのかと当時から出ていました。その辺りは、岩手県の発電ではどうなのでしょうか。

#### 【高橋企画推進課長】

再生可能エネルギーの関係でございます。今藤織委員から発言があった土砂災害、あるいは猛禽類への影響でございますけれども、土砂災害については、太陽光発電の設備が不十分、しっかりとして作らなかった影響で、雨が降って施設が崩れたという事例は実際にございます。また、工事をする過程で、十分な対策をとっていなかったために、工事中にふもとの川が濁ったとか、そういう事例もございます。どうしても、新たな分野で、事業者の方では早く作りたいとか、そういう部分が過去あって、そういったいろんな問題が出てきたというのが現状ではないかと考えています。

もう一点、猛禽類のお話がございました。確かに、岩手県でも、北上山地が中心になるかと思いますが、希少な猛禽類が生息している地域があって、そういったところには、できる

だけ作らないでほしいという意見がございます。

県としては、環境アセスを行っておりまして、太陽光にしる、風力にしる、環境アセスをしっかりと、猛禽類あるいは環境破壊につながらないかどうか、その辺りを十分検討した上で再生可能エネルギーが作られることが重要ではないかと考えておりますし、そういう対策をやっていきたいと考えています。

**【坊良局長】**

林地開発の面はどうですか。

**【及川林務部長】**

林務部でございます。

森林区域において、そういった構造物を開発するといった場合がございます。1 ha 以上の森林開発については、林地開発という手続が必要になってきます。それに乗っているものにつきましても、風力であろうが太陽光でも一緒なのですけれども、災害がちゃんと防止できているか、あと水害とか、周辺への水の確保とか、周辺の環境を悪化させるおそれがないか、そういう視点で業者を指導しています。伐採が伴いますので、そのリスクを回避するために、そのような指導をしつつ、開発については許可をしているという状況になってございます。太陽光が林地開発として導入したものが、県内の割合でいいますと、6割が県北に集中しているような形になっております。皆さんの認識とだいたい一致しているのかなと思ってございます。以上です。

**【坊良局長】**

制度的な、環境保護をしっかりすることを保ちながら、そういった太陽光パネルの設置等を認めているというところの説明をしていただきました。

再生可能エネルギーを進める上で、やはり、そういったことに留意をした上で進めなければならぬという御意見を頂戴したわけなんですけれども、進める上で、あるいはこういう部分にも十分留意する必要があるのではないかといたようなところ、御意見があればお話ししたいのですが、いかがでしょうか。

古舘委員、どうぞ。

**【古舘拓委員】**

私が、軽米のソーラーで一番懸念していることは、見た目の問題もありますし、土砂災害の危険性というのものもあるんですけども、一番懸念しているのは、建設している運営会社、現在は軽米だとほとんどレノバという第一部上場の企業が運営してるんですけども、そのレノ

バの会社の履歴とか見ればわかるのですが、色んな会社を作っては、譲渡したり転売したり、会社のスクラップ&ビルドを繰り返している会社でして、今後、何年か先に、直接の運営じゃなくて、会社ごとどっかに譲渡されたり、売られたりして、段々責任の所在が曖昧になって、最終的には誰が管理しているか分からないみたいな。あとは、中国が日本の色々な水田地の土地を買っているというニュースがありまして、軽米町の総合ソーラーも、軽米の防災雪谷川ダムの周辺の大きな土地をソーラーで開発してまして、例えばそういう所が、所有者が何年か経って、誰が管理してるかわからないという状態になるのを非常に危惧しています。そういう所を、作るだけでなく、その後の管理、場所の権利とか、会社を岩手県なり軽米町で管理できるのかどうか、管理できる体制にあるのかどうかというのをお聞きしたいです。

#### 【高橋企画推進課長】

この事例が、具体的にどういった事業者でどう転売されているかという部分については把握していませんけれども、まず1つ目の転売が進むことによって誰が管理しているのかと、責任は誰にあるのかということがどんどん薄れてしまっていくのではないかと御心配なんですけれども、確かに、最後に施設を壊して処分しなければならないという問題が出てくると思うんですけれども、そういったときに、その責任が誰にあるのかということが分からなくなってしまうという問題は、ぜひ避けるべきであろうと考えてございます。

国の方では、十数年前までは特にそういった制度はなかったと思いますが、廃棄処分をするときに太陽光パネルを壊すための費用を積み立てる制度が始まってきておりますので、そういった部分も、将来的には撤去する際の資金になると考えてございますし、売電をするわけですので、事業者がどこだっという部分はある程度把握できるのではないかと考えています。

あと、中国の買取については、やはり円安が進んできているという最近の状況もあるのかもしれないけれども、ニュース等でも土地を買っているという話がございしますが、不安な部分はあると思います。土地の売買の制度を適切に運用していくということが必要なのかなと思います。買取を拒否するとか、そういう部分においては、今対策をとれるものはないのかと考えてございます。以上です。

#### 【坊良局長】

再生可能エネルギーで、もう一方で意見が出たのは、地元本当にどういった効果があるのかがなかなか見えないのではないかと意見があったところでございます。

まさに今原油高騰等様々なものが値上がりする中で電気料も上がっているわけで、自給率を高めようという考え方が出てきておいて、その中では、この地域で発電した再生可能エネ

ルギーを地域で使っていくと。そして、いわゆる外的要因で上がったりするようなものにも左右されない。それが一番の理想なのでありますけれども、そういったようなことをやっていきたいと思いますということで、管内の8市町村と、盛岡の葛巻町、9つの自治体が協定を結んで、そういったような取組をしていきたいと思いますということでやっているところであります。久慈地域でいきますと、滝ダムの水力発電であったり、久慈地域エネルギーという地元で設立した企業さんが、地元で作った電気を、この合同庁舎あるいは二戸の合同庁舎に供給しているといった形で、自給自足の取組も出てきているところでございます。十文字さんの発電も、自給自足を目指しているということだと思います。

そういった方向でこれからも進めていくわけでありまして、そういったことに関連をいたしまして、みなさんから御意見があればお願いをしたいんですが、いかがでしょうか。

#### 【川代利幸委員】

今電気料がすごく高騰しております。当社も2年前に新電力の方に切り替えたんですよ。そしたら、今年の3月くらいに契約を変えますというような話があって、7月から高くなった電気料で使っているというようになっているんですけども、変えたときは電気料金が使っていた1/3になったり、電気料もかなり安くなって、年間50万円くらいの経費削減になったんですけども、今度はもっと高くなりまして、基本料金が5倍になりまして、電気料も5割以上上がる、安くなったところからなんですけれども。そうすると、当社では多分年間で300万円くらいプラスになるようになります。

再生エネルギーということで当社でもいろいろ考えているんですけども、自家消費ということで、屋根に上げようかなと思っているんですけども、県とか市町村等で補助金があればありがたいなと思っているんですけども、そういった対応はいかがでしょうか。私と同じような思いをしている企業さんが、久慈でいっぱいあるんですね。なので、そういったことで支援をしていただければと思います。

#### 【高橋企画推進課長】

これもニュース等でよく出ていたりするんですけども、市場価格で買った電気を、それぞれの事業者や住宅に供給するという事業を新電力がやっているんですけども、その市場価格が高くなっていくと、高く買わざるを得ない。市場価格が不安定なものが今起きております。数年前に一度跳ね上がったケースは、年末の時期に寒くなって使用電力が増えることにより、ぎりぎりのところで発電していたが、どうやら足りないということで上がったケースがございます。今はそれに加えて、ロシア・ウクライナのエネルギー問題もあって、高止まりの状況が続いているのが現状かと思っております。今後、新電力がこういった形でやっていけるかというのは、はっきりしない部分がございます。ただ、国としても何らかの対策をと

る方向にはあるのだと思いますけれど、具体的なところはこれからかなと思います。

あと、屋根に太陽光を設置するというので、今、県の方でも、事業者向けの事業として今年度から実施をしていると聞いています。具体的な中身については把握していないのですが、事業者向けの制度と聞いてございます。

もう一つ、屋根に上げる方法として、PPA という制度がありまして、発電事業者が一般の方、一般の事業所の屋根を借りて、太陽光を発電事業者が設置する。そして、そこで使われる電気を、貸した方が購入するという制度がございます。そういったものを、久慈地域エネルギー等でも、今、公共施設とか事業所が中心になるんですけれども、取組を進めておりますし、全国的に PPA という制度が今進んでいます。

**【坊良局長】**

規模は関係ないんですか。

**【高橋企画推進課長】**

採算性の規模というのはやっぱりあると思います。かなり小さい規模だと難しいといわれるケースはあるのかと思います。

**【坊良局長】**

具体的に言うと、今、この合同庁舎の上に太陽光パネルをある事業者が設置して、その事業者が我々建物の管理者に電気を売らましょと。我々は屋根を貸すので設置してという。ただ、1個1個の小さい世帯だとそれがコスト的に合わなければ、手を挙げる事業者はないですよ。そういうところの規模もあるんですね。

あとは、具体的などといった事業者を対象にした支援制度になるのかわからないのですが、県では事業者向けの、いわゆる自家発のための設備設置支援というものも考えている。ただ、予算の枠があると思いますから、どの部分までが対象になるかは、具体的にはなっていないところであります。

**【川代利幸委員】**

その辺が分かりましたら、ぜひお願いしたいと思います。

**【坊良局長】**

わかりました。

そのほか、ありませんでしょうか。どうぞ。

**【田家委員】**

要望なんですけれども、再生エネルギーのことも大事なんですけれども、このプランに基づく施策の方向性とか、そういう所を皆さんの御意見を聞けるのかなと思ってたんですけれども、個々に、委員の皆さんから、県から聞きたいことがあれば、それを示して聞取りをして欲しいなと思っております。

今日の会では、なかなか聞く時間が多くて、多分皆さま色々言いたいこともあるでしょうけれども、発言するための流れとか、そういう所が少し少なかったかなと思っておりますので、できるのであれば個々に聞取りを行って欲しいと思います。以上です、要望です。

**【坊良局長】**

今のところについては、内部で検討させていただきまして、ヒアリングになるのか、書面でもってお願いをするのか、そういったやり方の部分も含めて検討させていただきたいと思っております。

そのほか、ありませんでしょうか。どうぞ。

**【川代一枝委員】**

再生可能エネルギーでなくても、その他でもよろしいですか。

**【坊良局長】**

はい。どうぞ。

**【川代一枝委員】**

人間の幸福というか、健康でいて、地域で、みんなで顔を見れる生活をできるというのが、これからとても大事になると思うんです。それで、60代以降、後期高齢者の方たちに向けては、100歳体操とか、積極的に事業もされていますが、将来、要するに30代・40代の人もいずれ、20年後・30年後退職されて、その後の生活を送って、2人に1人は90歳まで生きる時代だといわれています。なので、今現在の高齢者の方にももちろん幸福でいてほしいのですが、これからなる私たちの世代、今働く方たちに、将来にわたるビジョンというか、健康で暮らせるようなビジョンが見れるような政策があれば、地域がもうちょっと活性化して、町内会と連動して動くことができるのではないかと感じておりました。ありがとうございます。

**【坊良局長】**

ありがとうございました。

もう少し具体的な部分を我々の方でも考えていきたいと思っております。ありがとうございます。

そのほか、なんでも結構です。皆様の方からありませんでしょうか。  
よろしいでしょうか。

それでは時間も参りました。大変貴重な意見をいただき、ありがとうございました。少し進め方の部分で御意見も頂戴いたしました。今後、その対応につきましては、整理してまいりたいと思います。

本日は、ポイント等も絞りながら御意見をいただきまして、次期振興プランの策定に参考にさせていただきたいと思います。また、案ができた後にも、皆さんにさらに御意見等を聞く機会も予定しておりますので、引き続きよろしくお願いいいたします。

最後に、川代利幸委員から照会のあったことについて、少しだけ紹介したいと思います。

首都圏からUターンで就職をする場合、単身の場合は60万円、世帯でいけば100万円が引っ越し・新生活支援ということであります。あと、子育て世帯には、県産木材を使用した住宅リフォーム購入支援ということで、先ほど林務からも説明をしましたがけれども、新築の場合は最大100万円、リフォームの場合は最大45万円という支援がございます。後ほどまた詳しく。

それでは、以上で進行の方を事務局にお返しします。

#### 4 その他

##### 【下山理事】

それでは、次第4、その他でございますが、議題以外に皆様から何かございますでしょうか。

#### 5 閉会

##### 【下山理事】

それでは、以上をもちまして、本日の会議は終了させていただきます。

次回第2回は11月下旬から12月頃、開催を予定しております。本日いただきました意見などを踏まえて作成します次の地域振興プランの素案につきまして、御意見をいただく予定としております。引き続きどうぞよろしくお願いいいたします。

なお、御出席いただきました委員の皆様には、後ほど、ささやかではありますがお礼の品をお送りさせていただきます。

本日はありがとうございました。